

～Jリーグ史上最大の人種差別事件～



2014年3月のサッカーJリーグの試合において、人種差別であると窺える横断幕が掲出されました。掲出したのはホームチームの一部のサポーターグループで、「JAPANESE ONLY」と書かれた横断幕等を掲げました。人種差別だと感じた他のサポーターが運営本部に報告したものの、本部は対処することなく試合終了まで放置しました。

Jリーグの理事長はクラブに対し、最も重い処分である無観客試合の開催を決定。横断幕を放置したクラブの人種差別に対する意識の低さが露呈した事件となりました。

3つのフェアプレー宣言

Jリーグは世界に誇るプロリーグを目指すことを目的に、差別横断幕事件直後の2014年4月に「3つのフェアプレー宣言」を行いました。



- 1 ピッチ上のフェアプレー
ルールを守る、審判や相手に敬意を払う
- 2 ファイナンシャル・フェアプレー
健全な経営を行う
- 3 ソーシャル・フェアプレー
差別根絶など社会的責任を果たす

リスペクトワッペン

日本サッカー協会及びJリーグでは、サッカーを始めとするスポーツの社会的役割を強く自覚し、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、リスペクトプロジェクトを開始しました。



その中の1つの取り組みとして、リスペクトワッペンを着用しています。Jリーグを始め、全てのカテゴリーの試合において、審判団がワッペンを着用しています。また、FIFA（国際サッカー連盟）フェアプレーデイズ期間内（9月1日～9日）に開催されるJリーグ・日本代表の試合においては、審判団だけではなく、両チームの選手全員が着用し、リスペクトの取り組みを広報しています。

界の取り組み

差別・暴力根絶宣言

日本では、毎年9月に「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ」と題した取り組みを行っています。この期間内の対象試合においては、試合前に両チームのキャプテンが、差別・暴力根絶に向けた宣言、いわゆる「リスペクト宣言」を読み上げています。

「サッカー、そしてスポーツに、暴力も暴言もありません。暴力・暴言を「しない、させない、許さない」ことを誓います。わたしたち一人ひとりが持つ、リスペクトする力、「大切に思う心」で、これからも、誰もが愛することのできるJリーグを、そして、差別・暴力のない世界を、みんなの力で作り、守っていきましょう。」

アビスパ福岡#8 キャプテン 鈴木 惇

二〇一八年九月二十九日
J2リーグ 第三十五節
アビスパ福岡対大宮アルディージャ
@レベルファイブスタジアム

「私達は、人種、性別、生まれ、宗教、その他のいかなる理由による差別も認めません。誰もが、安心、安全にサッカーを楽しむ権利をもち、その権利は、誰にも奪うことはできません。私達はサッカーの力で、サッカー界から、そしてこの社会から、差別をなくすことができると信じます。皆さんも、私たちとともに差別と闘ってくださるようお願いいたします。」

大宮アルディージャ#7 キャプテン 三門雄大



横断幕の掲示、プロモーションビデオ上映

スタジアムでの両チームキャプテンからのメッセージとともに、横断幕の掲示を行っています。試合前の写真撮影時、試合後のスタジアム巡回時に掲げています。

また、スタジアムの大型スクリーンではプロモーションビデオを上映し、多くの選手からのメッセージを何度も届けています。

